



松山市立石井北小学校
学校だより第292号
発行日令和7年6月16日

石井北小学校に「ひびくあいさつ」を

生徒指導主事 野口 淳宏

本校では日々の学校生活の中で、「あいさつ」を大切にする指導を行っています。あいさつは、相手への思いやりや社会性を育むうえで、大切な第一歩です。明るく元気なあいさつが交わされる学校には、自然と笑顔や温かさが広がり、子どもたちの心の成長にもつながっていきます。

しかしながら、近年の朝の登校の様子を見ておりますと、

- ・元気がない小さな声でのあいさつ
- ・相手の顔を見ないままのあいさつ

といった姿が見受けられることが多くあります。これはコロナ禍の中で、マスクをつけた生活が続いた影響や、日々の忙しさの中で「あいさつの意味」が薄れつつあることも一因かもしれません。

本校には、「北っ子5つのゆめ」の中に、あいさつの大切さを伝えるオリジナルキャラクター「あいるん」がいます。「あいるん」は、どんなときも元気よく、目を見て笑顔であいさつをする“あいさつの達人”です。子どもたちにとって親しみやすく、楽しくあいさつができるよう、全校で取組を進めているところです。

ご家庭でもぜひ以下のことについてご協力いただければ幸いです。

- ・朝の「おはよう」「いただきます・いってらっしゃい」「ただいま・おかえり」などの声掛けを習慣に
- ・相手の目を見て、笑顔であいさつを交わすことの大切さを話題に

学校と家庭が一体となって、あいさつの習慣を身につけることができれば、子どもたちのより成長につながると考えています。今後ともご協力をよろしくお願いいたします。



ひびくあいさつ「あいるん」



「対話」を通して創りだす学び

研修主任 吉田 聡美

本校では今年度、「子どもと教師が『楽しくする』学校 ～対話を通してつくり出す学び～」という研究主題のもと、日々の授業や教育活動を実践しています。

今は、先が読めないVUCAの時代（※変化が激しく、不確実で複雑な時代）と言われていています。そんな時代を子どもたちがたくましく生き抜いていくために必要なのは、「考え、話し合い、決めて、実行する力」だと、私たちは考えています。

その力を育てるために、教師も毎日の授業や活動の中で「対話」を大切にしています。「どう教えるか」だけでなく、「どうすれば子どもたちが夢中になれるか」「どんな問いが思考を促すか」といったことを、話し合い、試し、振り返る日々です。

ある日の授業後、クラスの子どもの「今日、〇〇さんと話してみたら、自分とは違う考えがあっけおもしろかった」とぼつり。以前は自分の考えをなかなか言えなかった子どもが、少しずつ友達との関わりを楽しめるようになってきました。授業の中で、思いを言葉にし、他者とつながる経験が、確かな力となって育ち始めている。

これからも、子どもたちの変化や挑戦を、学校と家庭とで一緒に見守っていかせたらと願っています。





「1年生の様子」

1年学年主任 松浦 明美

入学して2か月が経ちました。1年生は、学校生活に少しずつ慣れてきて、毎日楽しく過ごしています。国語科では平仮名の習得に励んだり、生活科ではアサガオの栽培をしたりと、学習にも意欲的に取り組んでいます。子どもたちが、元気に笑顔いっぱい学校生活を送れるように、私たち学級担任も頑張っています。今後とも、ご支援・ご協力をお願いいたします。

ひらがなをたくさん覚えたいよ。



アサガオのたねを植えたよ。どんな花が咲くか、楽しみだな。



二年生との学校探検。優しくしてくれて、ありがとう。



学年で、サイン集めをしたよ。友達をたくさんつくるよ。



遠足で、西立花公園に行つたよ。遊具で遊んだり、お弁当を食べたり、楽しい一日を過ごしたよ。



学校探検に行つたよ。校長先生がお仕事していただいたよ。四年生のリコーダー演奏、きれいだったね。

月行事予定につきましては、学校ホームページよりご確認ください。

【石井北小学校ホームページ <https://ishiikita-e.esnet.ed.jp/>】